

令和4年度 第2回 和地小学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和4年6月14日（火） 13時30分から15時30分まで
2. 開催場所 和地小学校 ランチルーム
3. 出席委員 宇津山 茂、牧田 眞喜夫、松木 和見、松尾 隆廣、田中 恵子、
山本 真希、中村 日出雄、渡利 彩、岡井 保
4. 欠席委員 夏目 裕
5. オブザーバー なし
6. 学校 高橋 宏典（校長）、木下 栄二（教頭）、大澤 真一郎（主幹）
7. 教育委員会 小川 誠司（教育総務課）
8. 傍聴者 なし
9. 協議事項
 - (1) 児童の現状と目指す子供の姿について
 - (2) その他
10. 会議録作成者 CSディレクター 石野 恵実、大澤 真一郎
11. 会議記録
 - (1) 授業参観の感想、児童の現状と目指す子供の姿について
 - ・全体的に楽しそうな姿、落ち着いていた。6年生では、タブレットを使った授業で、使っている子とそうでない子といる。どのように家庭で使っているのか？差があったのが気になった。理解度を合わせていくのが大変そうだ。勝手な行動をしている子がいて気になった。保護者との連携がとれているのか？（田中委員）
 - ・全体的に落ち着いて授業を受けていた。タブレットの利用について、難しく差ができるかもしれない。調べものだけでなくタブレットをノート代わりに使うのが面白いと思った。考える授業が楽しそうに感じた。（渡利委員）
 - ・一部自由な子もいたが、しっかりやっている子が多かった。高学年は、タブレットを使った授業を行っていたが、今からやればよいと思う。先生も教えることが多く大変になると感じる。低学年の子は、みんな挨拶をしてくれた。（牧田委員）
 - ・昔と違い、子供がリラックスしている。（松尾委員）
 - ・タブレットについて、持ち帰りをしているか。充電はどのようにおこなっているのか。家でもWi-Fiにつなげれば使えるのか。（松尾委員）
 - 今のところ持ち帰りはしていない。充電は、学校の保管庫に入れて行っている。また、家庭でも使用できる。（教頭）
 - ・外国語は英語を学習するのか。また、誰が教えているのか。（松尾委員）
 - 担任が教えているところもあれば、英語免許をもっているものも行っている。あとはALTが月に6回程度来校して指導している。（教頭）
 - ・発達学級に子どもが入る基準はどのようになっているのか。（松尾委員）

- 学校は、相談にのっているが、最終的には、家庭で判断をして入級している。(教頭)
- ・高学年の教室が窮屈そうに見えた。グループ活動はしっかり行っていた。廊下にいた子が気になった。2年、3年との成長の違いを感じた。3年生となると一生懸命勉強していると思った。(山本委員)
- ・1年生体育では、数か月前までに幼稚園だった子が元気に鬼ごっこをしているのがよい。体力作りが大切だと思う。4年生はタブレットを使って自習をしていた。こういったことが大切な時代になってきた。(岡井委員)
- ・上級生になればなるほど自分の考えをまとめ発表できている。普段の表情とは違って一生懸命取り組んでいる。上級生になればコミュニケーションをとり子供たちが考えて話し合っている。どのクラスも良い雰囲気での学習をしている。(宇津山委員)
- ・タブレットだと家庭の教育環境の差が出てくるので差があるとまずいのではないか。学習面についても同様。良い部分もあるが、気付にくい悪い面、分からなくて黙っているのか、隠れている部分を発見するのは先生一人では難しいのではないか。(松木議長)

◎気になる点を中心に学校運営協議会としてどんなことができるか？(松木議長)

- ・タブレットを使う際、授業内容によって補助は毎回つくのか？(山本委員)
 - ITアシスタントが週に1回来校している。ITアシスタントは、やり方を教えてくれる。(教頭)
- ・教師は操作方法が理解できているのか把握しているのか。理解に差がついてしまっているのではないか。差がある子のフォローが必要。そのため、補助できる人材を集めたらどうか(田中委員)
- ・学年に応じた操作方法を知っているか、学年ごとに目標を決めていけば問題にならないのではないか。(松尾)
- ・先生方にこんなことをしたいとかがあれば出してほしい。(宇津山委員)
 - GIGAスクール構想により、進めていかなければいけない。タブレットは道具の一つ。学びが最も大切。両方やっていかなければならない。弱点としては、先生の支援スタッフが週1回しか来ない。しかもあと2年しかつけない。今は、触らせること慣れることをさせている。(校長)
- ・タブレットを教える人を集めるということができたら先生方は助かるのか。(松木議長)
 - ボランティアの方のリストがあって頼めるとなるとありがたい。今つらい思いをしている子がいるなら手助けしたい。現状難しいが何かしら方法があれば先生方はうれしいと思う。(校長)
- ・地域と学校の結びつき。手薄になっているところを集めるのがよい。(宇津山委員)
- ・先生方にとってお手伝いできることがあればすべきだと思う。(松尾委員)
- ・学校が必要だというならば、探すべきだと思う。(岡井委員)
- ・ドリルパーク、ノートのような意見交換、タブレットの中にあるアプリを使って授業を

行っている。去年の6年生はタブレットに入っているワープロソフトで卒業文集を作った。みんな同じものを同じクラスで共有していく。(教頭)

- ・放課後児童会のようなもので教えるような機会を作ってあげることもよいかもしれない。また、協働センターのコミュニティ協議会にお願いしてもよいかもしれない。(松尾委員)
- ・協働センターで宿題をやって、そろばんへ行く子も何人かいるので実際やっていることを見守っていることもある。また、使うことについては、そんなに問題がないかもしれないが、1年生の使い始めのときには、人がいるとよいかもしれない。協議会で人を集めてみるのもよいかもしれない。メンバーのルールや、してほしいことを学校と相談するのはどうか。(松木議長)

→今年、1年生がいつタブレットを使い始めるか、内容を主任に確認してみる。子供同士で教え合うかもしれないので確認する。(校長)

- ・現在、地域の方々に御協力いただいているボランティア活動について、タブレットの件もあるが他にもボランティアの方をお願いしたいことを学校としても考えてみる。今はミシンの使い方や糸の通し方を教えに来てくださっている。(教頭)

- ・授業で寝ている子がいるので子どもたちの生活習慣リズムを調査していけるとよい。上に兄姉がいる子は上の子に合わせて夜遅くまで起きている子もいる。子どもたちが何時に寝ているのか確認できるといいと思う。(松木議長)

その他の連絡事項

- ・松木議長より次回会議は、令和4年11月17日(木)13時30分からランチルームで開催する旨の報告があった。